

ハンドボール競技における試合中の経時的な攻撃・守備の特徴に関する研究

A study about characteristics of attack and defense of each time in handball games

1K04B127-2

高田 彬仁

指導教員

主査 磯 繁雄 先生

副査 倉石平先生

I. 緒言

ボールゲームにおける戦術は、競技力を表す重要な要素のひとつである。この戦術が決定されるにあたっては、できるだけ多くの客観的な情報が利用されなければならない。そのため、その情報を正確に入手できることが競技の上で必要とされている。ボールゲームにおけるゲーム解析はその手段の一つである。

ハンドボール競技においても、ゲーム解析に関する様々な研究が行われている。その中で、ハンドボールの“ゲームの流れ”について研究も報告されているが、結論を出すまでには至っていない。

村上の研究では、ゲームの展開を得点の推移によって、時間帯を分別し、その時間帯ごとに傾向が明らかになっている。ただ、局面ごと大まかにプレーの傾向は明らかになっているが、具体的なプレーを示すまでには至っていない。実際のゲーム指揮においては、具体的にどのようにプレーをするかは重要であり、本研究は、この点を踏まえて詳細な試合展開におけるゲーム分析により戦術の特性を明らかにすることを試みた。

II. 研究方法

ハンドボールのゲームのビデオを8試合分収集し、映像を分析した。分析はあらかじめ項目を設定し、それに基づきデータを収集した。その後、各時間帯の総数を集計し、その頻度と割合を算出した。また、時間帯ごとに攻撃形態・最終局面ごとのプレー総数、攻撃形態ごとのプレー総数、最終局面ごとのプレーの総数、ディフェンス形態の総数を集計し、試合全体における、攻撃形態・最終局面、攻撃形態および最終局面ごとにプレーの成功確率を算出した。また、映像分析・データ収集には Power Analysis 解析ソフト、データ解析には Microsoft Excel を使用した。

III. 結果と考察

収集したデータをもとに、試合経過を連続攻撃成功期、通常攻撃期、連続攻撃失敗期ごとに、攻撃プレー、守備隊形の傾向を調べた。

今回研究では、連続攻撃成功期には成功確率の高いプレー・シュートが多く、その一方で連続攻撃失敗期においては成功確率の悪いプレー・シュートやミスが多いという結果になった。具体的に連続攻撃成功期に多かったのは、パラレルプレー、1次速攻などであった。連続得点するには、これらのプレーを増やすことが望ましいだろう。また、連続攻撃失敗期では、ロングプレーや、ミスが多いという結果になった。連続して攻撃を失敗しないためには、これらのプレーを減らすことが重要だと予想される。

守備隊形では、自陣に戻りながら、守備をする場合や、攻撃側が守備側より人数的に有利な場合、連続して得点できる可能性が高まることが明らかになった。ゾーンディフェンスでは、特に0-6ディフェンスが安定した成果を残している。一方1-2-3ディフェンスは連続して失点しやすいことが明らかになった。

IV. まとめ

今回の結果は定説を覆すというものではなかったが、ハンドボールプレーヤー中で言われていることを数値で裏付けるような結果になった。攻撃では確率の低いプレーを減らし、確率の高いプレーを増やす。守備では安定して守れるディフェンス隊形にもっていくことで、失点を減らす。この当たり前のことが勝利へ結び付くことを再認識できた。そしてそれは今後のチーム指揮や指導に役に立つことだと期待している。